

2008年3月3日

主催 (財) ミズノスポーツ振興会
(財) ミズノ国際スポーツ交流財団
共催 (財) 日本体育協会
(財) 日本オリンピック委員会

“2007年度 ミズノ スポーツメントール賞” 受賞者決定

(財) ミズノスポーツ振興会及び(財) ミズノ国際スポーツ交流財団では、(財) 日本体育協会、(財) 日本オリンピック委員会と共催で、1990年度より「ミズノ スポーツメントール賞」を制定しています。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定したものです。

3月3日、グランドプリンスホテル高輪で2007年度選考委員会を開き、受賞者を以下の通り決定いたしました。

【ミズノ スポーツメントール賞 ゴールド】 (トロフィー、副賞200万円)

栄 和人 氏 (中京女子大学・大学付属高等学校レスリング部監督、全日本女子監督)

【ミズノ スポーツメントール賞 シルバー】 (トロフィー、副賞各50万円)

児玉 修 氏 (全日本アルペンチーム・ヘッドコーチ)

門間 孝一 氏 (福島県体育協会 ジュニアスポーツ指導員)

【ミズノ スポーツメントール賞】 (トロフィー、副賞各20万円)

坂口 泰 氏 (中国電力陸上競技部 監督)

古沼 貞雄 氏 (元帝京高等学校サッカー部監督)

安部 欣哉 氏 (北京オリンピック強化委員会女子フルーレ部長)

雨森 輝昌 氏 (青森県体育協会 上級コーチ(体操))

小野 陽二 氏 (東京都体育協会 スポーツドクター)

小山 眞知子氏 (兵庫県体育協会 指導員(グラウンド・ゴルフ))

川並 久美子氏 (和歌山県体育協会 指導員(ソフトテニス))

古林 喜明 氏 (山口県体育協会 指導員(山岳))

詳細は別記の通りです。

【栄和人氏コメント】

「これ(受賞)も皆様方の協力と理解があったからこそ、レスリングに打ち込める環境の中で、オリンピックのメダリストを輩出することができました。これからも慢心しないで、努力精進していい選手を育てて行きたい。」

記

名 称 : 2007年度 ミズノ スポーツメントール賞

目的及び
選考基準 : 過去継続して我が国における優秀選手の育成に務めた指導者およびその周辺の
指導者、ならびに長年にわたり継続して地域スポーツの振興に尽力した指導者の
顕彰

選考委員 : 委員長 竹田 恆和氏 ((財)日本オリンピック委員会会長)
委員 長 沼 健氏 ((財)日本体育協会副会長)
" 泉 正文氏 ((財)日本体育協会常務理事)
" 監物 永三氏 ((財)日本体育協会常務理事)
" 福田 富昭氏 ((財)日本オリンピック委員会常務理事)
" 田中 英寿氏 ((財)日本オリンピック委員会常務理事)
" 水野 正人氏 ((財)ミズノスポーツ振興会会長 ミズノ(株)会長)
※順不同

対象者 : 国内外を問わず我が国の競技スポーツの指導者および地域スポーツの指導者

受賞者及び
選考理由 : 栄 和人 (さかえ かずひと) 氏 47歳

(中京女子大学・大学付属高等学校レスリング部監督、全日本女子監督)

選手時代に全日本選手権6回優勝、ソウルオリンピック出場、世界選手権6度出場の後、指導者に転向。京樽レスリング部コーチ、その後、中京女子大学レスリング部監督に就任し、その卓越した指導力で同部所属の選手たちを世界最強に強化育成し国内外から賞賛を浴びている。

指導している主な選手・チーム

伊調 千春 2003, 06, 07年世界選手権1位、2004年アテネオリンピック2位

吉田沙保里 2002, 03, 05, 06, 07年世界選手権1位、2004年アテネオリンピック1位

伊調 馨 2002, 03, 05, 06, 07年世界選手権1位、2004年アテネオリンピック1位

坂本日登美 2000, 01, 05, 06, 07年世界選手権1位

児玉 修 (こだま おさむ) 氏 51歳

(全日本アルペンチーム・ヘッドコーチ)

長年全日本のアルペンチームの指導に従事。トリノ冬季オリンピックでは、男子回転において皆川選手が4位、湯浅選手が7位と2名が入賞を果たした。両選手とも氏がジュニア時代から育成・強化した選手であり長年の指導の成果が表れた。

指導している主な選手・チーム

皆川健太郎 2006年トリノオリンピック 男子回転4位

湯浅 直樹 2006年トリノオリンピック 男子回転7位

門間 孝一 (もんま こういち) 氏 70歳

(福島県体育協会 ジュニアスポーツ指導員)

昭和39年から一貫してスポーツ少年団の代表指導者として、青少年の健全育成とジュニアスポーツの振興に尽力してきた。特に、多様な種目や野外活動等を豊富に取り

入れた少年団活動は、スポーツ少年団の理念を具現化しており、他の模範である。また、日独スポーツ少年団同時交流では、福島県内でも最も数多くのリーダーを、計画的にドイツに派遣するとともに、来日したドイツ団員の受入を積極的に行う等、スポーツ分野での国際交流にも力を入れている。

福島県スポーツ少年団においては、昭和52年に指導者の全県的な協力体制づくりに着手し、認定員養成講習会講師陣の組織整備から講習会運営まで、計画的な指導者養成に指導力を発揮するとともに、福島県スポーツ少年団指導者協議会の組織強化に努めた。

さらに、スポーツ少年団の活動をより豊かなものにするため、レクリエーションの指導技術の向上に努め、現在では福島県の第一人者として、後継者の育成はもとより組織の強化に対して指導力を発揮し成果を挙げている。また、平成7年に立ち上げた福島市の歩こう会の活動を核として、ウォーキング運動を隣県にまで広め、日本ウォーキング協会公認の国際大会と連動したツーデーマーチの普及にも尽力し、全国的な視野で生涯スポーツ振興に大きな貢献をしている。

坂口 泰（さかぐち やすし）氏 46歳

（中国電力陸上競技部 監督）

中国電力陸上競技部の創設に参加、監督に就任。当時無名だった油谷繁選手の発掘など卓越した指導力を発揮、その後も尾方剛、佐藤敦らの有力マラソン選手を指導した。チームは、2004、2007年全日本実業団駅伝に優勝。アテネオリンピックでは油谷選手が5位入賞、2005年世界選手権では尾方選手が銅メダルを獲得。

指導している主な選手・チーム

尾方 剛 2005年世界選手権3位、2007年世界選手権5位
油谷 繁 2004年アテネオリンピック5位
佐藤 敦之 2007年福岡国際マラソン3位

古沼 貞雄（こぬま さだお）氏 68歳

（元帝京高等学校サッカー部 監督）

帝京高校サッカー部監督として長年現場に立ち、9回の全国制覇を達成。数多くの優秀な選手を育成し、日本代表、ユース代表等に輩出。日本代表の近年の好成績は、氏を始めとする各地域の優秀な指導者に支えられている。また、帝京高校退職後も、氏を師と仰ぐ全国の指導者、選手の指導を続けている。

指導している主な選手・チーム

中田浩二、田中達也他数多くの年代別代表選手（帝京高校出身者）

安部 欣哉（あべ きんや）氏 39歳

（北京オリンピック強化委員会女子フルーレ部長）

2005年ユニバーシアード大会において、女子フルーレで池端選手が銅メダルを獲得。2007年世界選手権大会では、氏が常時指導する女子フルーレチームが、日本人選手として初めて銅メダル獲得という偉業を達成。

指導している主な選手・チーム

池端花奈恵 2005年イズミルユニバーシアード 女子フルーレ3位
菅原智恵子 2007年世界選手権 女子フルーレ3位

雨森 輝昌（あめのもり てるまさ）氏 72歳

(青森県体育協会 上級コーチ(体操))

昭和 32 年の高校教諭時代から現在までの 50 年間、部活動の顧問・監督として体操競技・新体操競技の普及と競技力向上を目指し、全国高等学校総合体育大会体操競技で 2 年連続優勝するなどの実績を有する他、青森県内での健康体操の指導並びに社会体育の普及・振興に携わってきた。

昭和 50 年あすなろ国体体操競技の弘前市開催を記念し「あすなろ体操スクール」を開設、小学校の段階までに基礎体力の養成を図るコース、基礎・基本的技能及び応用技能の養成のコース、成人が健康づくりを兼ねて体操を楽しむためのコースを設け、活動するとともに、弘前市体操連盟、弘前市体育協会において永年にわたり役員として活動し、スポーツの普及振興と青森県民の健康増進のための社会体育に大きく貢献している。

特に、平成 11 年には青森県の「スポーツ立県」を記念して制作した弘前市民の体操「おらほの体操」を創作し、その普及・指導をはじめ、その他各種体操を制作し、青森県内の多くの地域住民に対し体操を通じた健康指導を推進している。

小野 陽二 (おの ようじ) 氏 71 歳

(東京都体育協会 スポーツドクター)

医師として多忙な日常の中、これまで永年にわたり日本体育協会「国体選手の医・科学サポートに関する研究」中央企画班員、東京都体育協会常務理事、スポーツ医・科学委員会委員長等、また日本ラグビーフットボール協会をはじめとする、ラグビーフットボール関係団体等の委員会にスポーツドクターとして専門的立場からの活動に携わってきた。

さらにその活動にとどまらず、渋谷区教育委員会体育指導委員を始め、渋谷小学校開放運営委員会副会長、渋谷区氷川地区体育協会副会長等としての活動を行ってきた。特に、毎年開催される氷川地区のスポーツ大会では、運営の中心者として、また救護の医師としても携わるなど、地域における活動を通じて、多くの区民の健康づくりや生涯スポーツの普及・啓発に寄与するとともに、各スポーツ関係団体における活動を積極的に行うことにより、地域スポーツ振興の発展に尽力した。

小山 眞知子 (こやま まちこ) 氏 68 歳

(兵庫県体育協会 指導員(グラウンド・ゴルフ))

永年にわたり生涯スポーツ活動に積極的に関わっており、特に阪神・淡路大震災時には、神戸市区内の仮設住居を訪れ、色々な症状に悩まされ、精神的に疲弊していく被災者に「心のケア」として”元気アップ体操”の指導を行うなど、昭和 51 年以来、現在も地域活動に従事している。

また、神戸市および兵庫県グラウンド・ゴルフ協会の設立と共に役員に就任し、各種大会の企画・運営に携わる。なかでも、平成 19 年度開催の第 1 回全国レディス交歓大会においては、大会誘致から開催まで尽力した。グラウンド・ゴルフ普及指導員の養成講習会等では、講師として欠くことのできない存在であり、生涯スポーツとしてのグラウンド・ゴルフの醍醐味を味合わせる指導に心がけるなど、目標とされる良き指導者である。

さらに、兵庫県民の体育・スポーツに対する理解と関心を深め、その実践への意欲を高める機会とすることを目的として開催される兵庫県民体育大会の運営実行委員として積極的に関わるなど、グラウンド・ゴルフの指導のみならず多くの生涯スポーツの振興・普及に多大な貢献をしている。

川並 久美子 (かわなみ くみこ) 氏 59歳

(和歌山県体育協会 指導員(ソフトテニス))

ソフトテニス競技において、全日本学生選手権大会での優勝や和歌山県代表として国民体育大会で活躍するとともに、高等学校の部活動の顧問として選手の育成に励んだ後、昭和50年より和歌山レディースセンチュリークラブ(和歌山LCC)で指導を始める。その指導の経験から、ジュニアからの指導の必要性を強く感じ、昭和52年、全国に先駆けジュニアからの一貫した指導を目指し、和歌山LCCのジュニア部門として小学生のクラブを立ち上げ、世界選手権大会等の代表選手の輩出を始め、小学生から成人の各世代において全国優勝を果たす多くの優秀な選手を育成するとともに、昭和56年からは和歌山県ソフトテニス連盟の副理事長等として26年の永きにわたりソフトテニス競技の普及・発展に尽力している。

平成9年度から和歌山県女性スポーツ連盟理事長や副会長として、女性のスポーツ参加率向上や男女共同参画社会形成に寄与するとともに、同連盟の専門部の活動であるバレーボール、卓球、バドミントンなどの普及を通して女性スポーツの発展に大いに貢献している。

平成10年度から和歌山県体育協会常任理事として諸事業に参画、その他、和歌山県スポーツ振興審議会委員などを務め、「こどもたちのために、女性のために」という考え方のもと生涯スポーツの定着と地域スポーツクラブの育成に尽力している。

古林 喜明 (こばやし よしあき) 氏 55歳

(山口県体育協会 指導員(山岳))

昭和63年から山口県山岳連盟国体副委員長・委員長として、また平成14年から理事長として、長年にわたり優れた指導力をもって、山岳競技の普及、発展に努め、山口県民体育の振興、推進に大きく寄与した。特に小中学生から成人までクライミングに興味を持たせ、山岳愛好者の増加を図るため、平成13年からクライミング教室を毎月1~2回開催し、競技人口の拡大に努めるとともに、素質のある愛好者については、全国に先がけたジュニアクラブを立ち上げ、全国大会においてトップレベルになるまで育成し、上位入賞への目標達成やスポーツ環境の整備に尽力している。

国民体育大会山岳競技では、第43回京都大会以降20年連続入賞を果たすとともに、第57回高知大会では男女総合成績で優勝という快挙を遂げ、山岳山口県の名を全国に広めた功績は多大である。

以上

(お問合せ先)

(財) ミズノスポーツ振興会 事務局	内橋	TEL. 03 (3233) 7009
ミズノ 東京 広報課	澤井・木水	TEL. 03 (3233) 7037
ミズノ 大阪 広報課	高橋・大澤	TEL. 06 (6614) 8373